

住宅における健康・快適性の向上と省エネ化に関する 国際的研究・教育への貢献

名誉会員 吉野 博 殿

吉野博君は、1971年に横浜国立大学工学部建築学科を卒業し、1973年に東京大学大学院工学系研究科修士課程を修了後、同博士課程に進み、東京大学生産研究所助手に採用され、東北大学工学部建築学科助教授（1978年）、同教授（1992年）として、研究教育活動に貢献してきた。2012年3月の退職後、2014年から2018年まで東北大学総長特命教授の職責を務めた。

同君は、1980年代に東北地方の多くの住宅を測定し、温熱環境の実態把握に努めたほか、室温と脳卒中との関連性を示した。さらに、高断熱・高気密化の効果を示す多くの測定データを報告し、東北地方における高断熱・高気密住宅の普及に大きく貢献した。同時に、換気の問題にも取り組み、住宅における換気実態や換気設計法等に関して多くの成果を報告した。これらの成果により「住宅における熱・空気環境の評価と性能向上に関する一連の研究」で1992年日本建築学会賞（論文）を受賞した。1990年代後半には、疫学的調査によってシックハウス問題に関わる貴重なデータを蓄積し、その解決に大きく貢献した。その後、アレルギー疾患等の問題についても研究を進めている。また、自然エネルギー利用の研究にも長年取り組み、1980年代にはパッシブソーラーハウスや地下住宅の省エネルギー効果を定量的に明らかにし、2000年代には太陽熱利用型デシカント空調の技術開発にも貢献した。

同君の活躍は国内に留まらず、1990年代後半から中国の主要大学との多くの共同研究・学術交流を通じて、中国の都市住宅の居住環境・エネルギー消費の研究にも従事し、貴重なデータを数多く発表している。さらに、ノーベル平和賞を受賞した第4次IPCCレポートにおいて一つの章のLead Authorを担当するとともに、2000年からはISO/TC163/SC1/WG10の気密性能試験法のConvenor、2009年からはIEAの研究プロジェクト「建物のエネルギー消費に関する調査研究」の議長に就任する等、国際的にリーダーシップを発揮している。また、同君は中国をはじめ各国から多くの留学生を受け入れてきた。現在では、その多くが母国で教鞭をとっており、中国等との国際共同研究の強い推進力となっている。同君は中国の重慶大学特聘教授、同済大学顧問教授、浙江清華三角研究院院士を務め、浙江大学、重慶大学での講義や研究指導を続けている。

本会にあっては、環境工学委員会委員長、地球環境委員会委員長、東北支部長、副会長等を歴任し、副会長時代には提言「建築分野の地球温暖化対策ビジョン2050～建築のカーボン・ニュートラル化を目指して～」を取りまとめた。2013～2015年には本会会長を務め、東日本大震災の復興支援、福島放射能問題、将来の地震・津波災害への備え等に大いに尽力した。また、近年増大する気象災害リスクについても「気候変動による災害防止に関する特別調査委員会」を組織し、対応を進めた。

以上のように、同君は住宅における健康・快適性の向上と省エネ化に関する国際的研究・教育において顕著な業績を残し、建築界の発展に大きく貢献した。

よって、ここに日本建築学会大賞を贈るものである。